

第37回応用言語学講座公開講演会

後援：国際言語文化研究科教育研究プロジェクト経費

(「大学院生のための応用言語学アウトスタンディングレクチャーシリーズ」)

役割指示文法からみたオノマトペの統語位置 —通言語的視点から—

講師：虎谷紀世子先生 (ヨーク大学)

講演内容

音象徴語 (オノマトペ) は、通言語的にしばしば副詞として機能することが観察されている。日本語オノマトペも多くが副詞として文中に現れる (Hamano 1998等)。本発表ではその大半である、「と」を伴う形と伴わない形 (例：きらきら (と) 光る) に焦点をあて、その統語位置を考察する。まず文学作品から得たデータをもとにオノマトペが占める文中の位置 (動詞直前、等) について考察する。次に、その位置を役割指示文法 (RRG) (Van Valin 2005) の枠組みで分析する。特に、一般語の副詞との類似点・相違点に着目し、また、他言語の音象徴語の例も引用しながら考察を進めていく。

参考文献

Hamano, Shoko. 1998. *The Sound-Symbolic System of Japanese*. Stanford, CA: CSLI Publications.
Van Valin, Robert D. 2005. *Exploring the Syntax-Semantics Interface*. Cambridge: Cambridge University Press.

- 日時： 2015年12月15日 (火) 午後4時30分～6時00分
 - 場所： 名古屋大学 全学教育棟北棟4階406室
<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>
 - 交通案内： 地下鉄名城線「名古屋大学駅」①番出口徒歩5分
- 入場無料・事前申し込み不要**

お問い合わせ：秋田喜美 <akita@lang.nagoya-u.ac.jp>